

■自社の新入社員から感じる 産学による人材育成■

当社にも毎年多くの新入社員に入社して頂いております。採用活動をさせて頂く際、いつも不思議に思うのは学生の希望部署です。工学系出身のほとんどの学生は、「開発」や「技術」「研究」といった部署を希望されます。大学での研究や卒論の実績があるからかもしれませんし、研究・開発という部署が会社の先端に感じるからなのかもしれませんが、私はその選択にいつも疑問を感じております。

当社では、入社して頂いてすぐに研究開発部への配属ということはありません。新入社員は必ず製造現場に配属になります。この配属には「現場の厳しさを知る」というだけの安易な意味が込められているわけではありません。私は「現場が会社の最先端である」と考えているからなのです。現在の工場内は近代化が進み、当社の工場でもかなりの設備が自動化されています。以前のように真っ黒になりながら物を造るというイメージは薄いですが、何を使って、どのような工程で、どんな技術を利用して、何を造り、どうやってお客様のところに届けられ、お金になるのかという一連の流れを自分で経験することが大事なのです。いくら機械が自動で行ってくれるからといって、工程を何も知らなくていいというわけではありません。製品不良や機械トラブルが起こった際、改善や原因究明を行うのはやはり、「人」なのです。それには原因を究明できるだけの知識や経験が必要です。ですから大学での勉強が必要になってくるのです。そのような連鎖の頂点にあるのはやはり現場なのです。ですから学生にはアルバイトは飲食店などで行うのも良いですが、ものづくりの現場でのアルバイトが社会人として働いていくにあたり、最も良い経験になるのではないのでしょうか。協力会の会員企業にもご協力頂き、学生を長期にわたってアルバイトとして雇用し現場を教えることで「学ぶ必要性と意欲」を創成する。これが「産学による人材育成」

の1つのスタイルではないかと私は考えております。

また、現場の経験からは、無駄の削減や生産効率の上げ方、新たな技術の可能性という閃きが得られます。その気づきがあって初めてデータ分析や実験といった研究開発の必要性が理解できるのです。現場を知らない研究開発者は良い開発などではできません。

原価意識も重要です。ある製品を製造する際、材料費がいくらで、何人で何時間くらいかかるのか、使用する機械は何を何分くらい使うのか、輸送がある際は何か運ぶ必要があり、ガソリン代と運転手の人件費は製品1個あたりいくらになるのか、というような計算も企業の技術者には必要不可欠な知識でしょう。表面的な技術だけの研究は、企業においてはどの役にも立たないことの方が多いのです。学生には「もの造り」における「ものの流れ」と「お金の流れ」という基本中の基本をもっと徹底して教えるべきだと思います。

■教える側・教わる側の姿勢■

しかし、ものづくりにおいて最も大切なことは、整理・整頓といった「5S」と「ものを大切に扱う気持ち」です。使ったものを元に戻す、大切に使い長持ちさせるといった考え方を持っていなければ、新たな気づきというものも、出てこないですし、いい仕事はできません。責任ある社会人でなければ、この重要性には気づくことができないのかも知れませんが、少しでも学生時代からこのことの重要性を理解できれば、すばらしい人材が育つと思います。

社会に出て活躍できる人材の育成にはカリキュラムだけではなく、教

える側の努力も必要でしょう。精神的なものになるのかもしれませんが、学部や専門知識より本人の「やる気」「こころの強さ」です。これさえあれば、専門的な知識など入社してからでも十分に学ぶ機会があります。毎年何人かそのような学生が入ってきますが、彼らに共通しているのは研究室の仲間や先生を「好き」という点です。教える側に魅力がなければ、何を教えても学生には響きません。そういった、人間性の向上も大学だけではなく、『教育』には必要なことなのかもしれません。

様々な問題はあるとは思いますが、人材不足になるこれからの時代、人材育成は大学にとっても企業にとっても、社会全体にとっても重要なテーマです。試行錯誤を繰り返しながら、一歩ずつでも着実に進めていきたいと思っております。それにはやはり教育の「現場」を私たちも知る必要があるのかもしれない。

株式会社 ユニゾーン UNIZONE.Co.,LTD 代表取締役社長 梅田 ひろ美氏



新リエゾンサポーターリーダー8名をご紹介します。 リーダーの皆様は会員と大学の連携促進を担っています。

お名前 50音順

沖 善成氏 三協立山アルミ株式会社 技術開発本部 執行役員



富山県立大学との関係は、平成5年に初めての卒論中間発表に、参加して以来続いています。弊社生産技術部の若い社員の研修を兼ねて、立山国際ホテルを会場に一泊で行いました。現在も毎年、立山サマーセミナーとして続いています。

産学連携などという意識はありませんでしたが、思えばその後いろいろとテーマが生まれました。学会にもぜひぶん導いて頂いて、海外との学術面での接点もできました。国からの委託研究などを受ける機会も得られました。地域の大学は、家に例えれば、書斎でありテラスであると考えます。個人も、企業もすべてを自前でそろえることは難しいでしょう。気軽に立ち寄れて、リフレッシュできる場であって欲しいと期待しています。

■所在地■高岡市早川
■取扱商品/サービス■サ-ビス概要：アルミ建材、アルミ形材
■HPアドレス■<http://www.sankyotateyama-al.co.jp>

坂本 恵司氏 第一ファインケミカル株式会社 技術部応用開発担当部長



第一ファインケミカル(株)技術部応用開発担当部長の坂本と申します。専門は有機化学、応用微生物学であり、酵素法による医薬品・ビタミン等の製造および新製品開発を手がけております。この酵素法を含むバイオの分野では世界でトップクラスの先生方が富山県立大学に在籍しておられ、我々、産の立場としては非常に頼もしい状況である反面、富山県はバイオの受け皿としての産が数少ないという状況でもあります。微力ではありますが、バイオの応用性・汎用性が非常に高いというアピールを産の皆様方しながら、県立大と企業間の産学連携をコーディネーターの先生方と共にサポートしていきたいと考えています。よろしくお願い致します。

■所在地■高岡市長慶寺
■取扱商品/サービス■医薬品製造・販売
■HPアドレス■<http://www.daiichi-fcj.co.jp>

河本 通郎氏 田中精密工業株式会社 常務取締役



田中精密工業に2004年4月から勤務しております。技術担当として、新規に取り組む部品を顧客と一緒に量産するための基本仕様や生産条件を決めていくことを行っています。以前

はある自動車会社でエンジンの設計や新型車の開発を長年担当していました。このときに細かいところまで気を使って技術を完成させる難しさを経験しました。いわゆる泥臭い仕事の部分が自動車開発では大半を占めていますが、一方大学の研究は今まで誰もやっていないことを研究対象にしていると思いますので、その両者をうまく生かして、大学と産業界とをうまく繋ぐような研究・開発を増やしていきたいと考えています。

■所在地■富山市新庄本町
■取扱商品/サービス■自動車・オートバイ用精密部品の製造
自動車販売
■HPアドレス■<http://www.tanasei.co.jp/>

竹内 克彦氏 北陸電力株式会社 開発技術部・環境保全センター 研究企画チーム課長



北陸電力では、研究方針の策定、研究計画・成果の評価、研究に関する情報収集などを担当しています。当社は、電力の安定供給、環境保全、電力の有効利用などに関する研究開発を行っており、雷雲強度予測、アスベスト無害化処理、電気バスの開発などのテーマについては、大学と共同研究を行い、成果を上げています。共同研究などの産学連携は、大学と企業双方にメリットのある有効なスキームですが、シーズとニーズが上手くマッチングすることはなかなか難しいものです。富山県立大学のシーズと当社・グループ企業等のニーズをよく把握し、上手にマッチングさせることで、成果のある共同研究、研究成果の有効活用ができるよう微力ながらお手伝いする所存です。

■所在地■富山市牛島町
■取扱商品/サービス■電力
■HPアドレス■<http://www.rikuden.co.jp>